

機械設備工事特記仕様書
1 工事名称 城東地区コミュニティセンター建設等工事
2 工事場所 三重県亀山市東町1丁目 地内
3 建築概要 鉄骨造 平屋建 延べ面積 764.53㎡
4 適用基準 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、以下による
5 一般事項
(1) 提出図書
(2) 機器及び材料等
(3) 官公署等への届出手続
(4) 品質管理
(5) 出来形管理
(6) 製品確認
(7) 耐震安全性の分類
(8) 機器の地震力(主要機器)
(9) 冷暖(ファン類)の回収
(10) 中間技術者

(11) 発生材の処理等
(12) 電気保安技術
(13) 施工条件
(14) 構成工程
(15) 仮設工事
(16) 足場
(17) 建築材料等
(18) 建設用資材
(19) 三重県産業廃棄物
(20) 事故の発生時
(21) 既設との取合い・養生
(22) 総合評価方式
(23) 下請回数制限及び管内(管内)企業優先使用

(24) 主任技術者又は監理技術者
(25) 防火保険等
(26) 工事目的物部分引渡し等について
(27) 埋蔵文化財調査
(28) 不正軽油の使用の禁止
(29) その他
(30) 社会保険等未加入対策
(31) その他
(32) 現場での安全確保
(33) 電子メールの活用
(34) 設計図書の開示
6 工教科目
7 工事概要
空調設備工事に於ける外気、室内の温湿度条件
(2) 換気設備工事
(3) 衛生器具設備工事
(4) 給水設備工事
(5) 排水設備工事
(6) 給湯設備工事

8 総合調整
(1) 風量調整
(2) 水量調整
(3) 室内外空気の温度測定
(4) 室内外空気の湿度測定
(5) 室内気流及びじんあいの測定
(6) 騒音の測定
(7) 飲料水の硬度の測定
9 工事細目
(1) 配管材料
■ 給水管
■ 雑排水管
□ 通気管
■ 汚水管
□ 鉛管
□ 給湯管
□ ガス管
□ 消火管
■ 屋外埋設排水

Table with specifications for piping systems including cold water supply, cooling water, drain, and steam pipes, listing materials, standards, and dimensions.

※ 弁類 揚水ポンプまわり、消火ポンプまわり、水道直圧部は10Kとし、それ以外は5Kとする。塩ビライニング鋼管に使用する際は、管端防食カバー、又はライニング弁を使用すること。

※ 横走り管の吊り間隔

Table showing suspension intervals for horizontal pipes (鋼管, ビニル管, 耐火二層管, 銅管, 鉛管, 鋼鉄管) based on diameter and material.

※ 横走り管形鋼管止め支持間隔

Table showing support intervals for horizontal pipe-shaped steel pipes (鋼管, 鋼鉄管, ビニル管, 耐火二層管, 銅管) based on diameter.

※ 冷媒用鋼管の横走り管の支持間隔 基準外径 9.5mm以下 吊り間隔 1.5m以下 ※ 液管・ガス管共用の場合は 基準外径 12.7mm以上 吊り間隔 2.0m以下 液管の外径を基準とする。

- 2) ダクト工事 矩形ダクト 至鉛板 JIS G 3002 (S30C、S30CA) 管径寸法76以上 鋼板 JIS S4505 アングルフランジ工法 アングルフランジ工法 共板フランジ工法 スライドオンフランジ工法 形鋼補強 丸ダクト

- 3) 保温塗装工事 1) 材料 ■ グラスウール保温材 (屋内一般等) ■ 給水管 ■ 排水管 ■ 給湯管 (70℃以上) ■ 温水管 ■ 蒸気管 ■ 冷水・冷温水管 ■ 冷媒管 ■ 給湯管 (70℃以下) ■ 温水管 ■ 蒸気管 ■ 冷水・冷温水管 ■ 冷媒管

Table for insulation materials (グラスウール保温材) including spray-on and blanket types with application details.

Table for polystyrene foam insulation (ポリスチレンフォーム保温材) for indoor general use and piping.

Table for joint sealants (合成樹脂調合ベント塗料) for spray-on and pipe applications.

Table for surface sealants (さび止めベント塗り塗料) for pipe joints and ducts.

Table for insulation thickness (保温厚) for glass wool and rock wool, listing dimensions and application areas.

Table for polyethylene foam (ポリスチレンフォーム) insulation, listing dimensions and application areas like piping and ducts.

Table for duct insulation (機器ダクト保温厚) for various equipment, listing insulation types and thicknesses.

Table for air conditioning equipment insulation (空調設備配管の保温仕様) for various components like indoor/outdoor units and pipes.

Table for air conditioning equipment insulation (空調設備配管の保温仕様) for various components like indoor/outdoor units and pipes.

Table for equipment insulation (機器保温仕様) for various equipment like tanks and pipes, listing insulation materials and methods.

Table for duct/chamber/duct insulation (ダクト・チャンパー・煙道 保温仕様) for various duct types, listing insulation materials and methods.

※ 1) 煙道ダクトは、ロックウール保温板、保温帯、1号を使用。 ※ 2) 煙道フランクは、JIS B 5554 (後半金網) による直敷金を施した軽目網1編目0.55の金網又はRMS02による防錆処理を施した平ラシ0号で外面補強したものを使用。 ※ 3) 鋼金網金網は、JIS B 5200 軽目網10、経目0.5を使用。

Table for pipe jacket insulation (配管用炭素鋼管の塗装仕様) for various pipe types, listing paint types and application methods.

- 4) 施工 ダクト保温施工手順 1. SA □ 保温あり □ 保温なし □ 図面による □ その他 ( ) 2. EA □ 保温あり □ 保温なし □ 図面による □ その他 ( ) 3. RA □ 保温あり □ 保温なし □ 図面による □ その他 ( ) 4. OA □ 保温あり □ 保温なし □ 図面による □ その他 ( ) ■ 保温あり □ 保温なし ■ 図面による □ その他 ( )

- 4) スリーブ工事 1. 管スリーブの径は、原則として、管の外径 (保温されるものは、保温厚さを含む) より40mm程度大 (寸サイズ) なものとする。 2. 管径がスリーブは、本枠又は鋼板 (実管ダクト) とする。 3. 地中部分のスリーブは、塩化ビニル管 (VU) とし、水密を要する部分のスリーブは、つば付き鋼管とする。 4. 地中梁以外の架け橋スリーブは、垂鉛鉄板を原則とする。 5. 柱及び梁以外の箇所、開口補強が不要であり、かつ、スリーブ径が200mm以下の部分は、紙製仮枠としてもよい。 6. 紙製仮枠を用いる場合は、変形防止の措置を講じ、かつ、配管施工前に仮枠を必ず取除くものとする。

- II 共通事項 1. 陸上ポンプ、送排風機 (エアハン含む) の電動機は、すべて全閉防まつ形とする。 2. 配管途中、要所にはフランジ接続箇所を設置し、取り外しを容易にすること。 3. システムが分かるように、必要箇所 (機械室、PS内等) に文字書き・矢印記入・バルブ取付を行うこと。手書きもしくはカッティングシートとする。 4. 機器・配管の耐震措置は、絶縁処理を行うこと。 5. 配管に空気が滞留する恐れのある箇所には、エア抜き弁を設置し、最もりのドレン管に接続すること。 6. 屋外機器設置基礎のアンカーボルトは、構造体鉄筋より取り出す、もしくはあと施工アンカー工法の類とする。使用アンカーについては、機器仕様書、耐震クラス等を確認すること。また、重量機器にあつてはアンカー工法を採用する場合、ケミカルアンカーを使用し施工すること。 7. 機器・配管の耐震措置及び機器、ダクトの防振・消音については、標準仕様書、標準図、施工監理指針及び建築設備耐震設計・施工指針に基づき十分考慮すること。 8. 雨がかり部に取付けるガラリは、水抜きを設けること。 9. 屋外埋設管 (給水、消火、ガス) には、埋設シートを敷設し、曲がり・分岐部には、地中埋設機を施工すること。 10. 冷水及び冷温水管の支持材には、合成樹脂製支持受けを使用すること。 11. 水栓は、節水機構付きのものを使用すること。 12. 冷媒管等防火区画貫通部は、建築基準法・消防法に適合する工法にて防火処理を行うこと。 13. 地中埋設配管については、下記の対応策を講ずること。 ・ 管は継ぎ手の組み合わせにより可とう性をもちえる。 ・ 接続箇所は必要に応じてコンクリートで保護すること。 ・ 土間配管は、土間防に吊り下げなければならない埋設配管を保持すること。 ・ 呼び径100A以下はR10、125A~250AはR12、250A以上はR16のステンレス鋼管を使用すること。 14. 屋外露出及び多湿箇所 (トレンチ等) の配管架台は、SUS又はSS溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。 15. 屋外設置のマンホール類には用途名を入れること。 16. 合成樹脂製カバーの仕上げについては、保温見切り箇所には巻帯の取り付けを行うこと。 17. 送風機用ベルトカバーには点検口を設けること。

II 指定資材及び参考見張りメーカー

Table of specified materials and manufacturers, listing categories (管, 継手, 弁, 保温材, ポンプ類, 電動機, 衛生器具, タンク, 井, 鋼鉄製品, 量水器, ガス器具, 厨房機器) and their respective manufacturers.

Table of equipment and materials, listing categories (通過装置, 滅菌機, 消火装置, 浄化槽, 簡易水洗, フロア, 阻害器, 特殊ガス, 計測機器, 化学実験装置, 製缶類, 温水発生機, ポイラー, 冷凍機, 空調調和機, 冷却塔, 防振装置, 加湿器, 送風機, 換気扇, 全熱交換機, 空気清浄装置, タクト, タンク, 衛生器具, ガス器具, 厨房機器) and their respective manufacturers.

【注記】 ① JISマーク、水マーク (厚生省) 又は日本水道協会規格、JSP (日本水道協会規格)、SHASE-S (空気調和・衛生工学協会規格)、JPF (日本建築工事標準仕様書) SAS (ステンレス協会規格) の番号については、「公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編)」「公共建築改修工事標準仕様書 (機械設備工事編)」による。 ② JISマーク表示品と指定された資材は、工業標準化法施工規則に基づき、製品・包装の外観、容器の外観、結束荷札ことと納品書にJISマーク表示のあるものとする。 ③ 設備機材等評価名簿とは、「建築材料・設備機材等品質評価事業」設備機材等評価名簿 (最新版) をいう。但し、評価名簿による場合、「納入地区及びアフターサービス地区」に中部地区が含まれていて、評価の有効期間内にある場合に有効とする。

図示記号

記号	名称	備考
———	給水管	
———	排水管	
-----	通気管	
——R——	冷媒配管	
——D——	ドレン配管	
———	ダクト	

記号	名称	備考
□	給水栓	
⊗	弁類	
⊖	床上掃除口	
⊙	排水金物	

衛生機器表

記号	名称	形式・仕様	電源	台数	設置場所	備考
EH 1	電気温水器	形式：据置型 (60℃出湯：出湯温度可変型・ウィークリタイマー) 容量：35L 付属品：止水栓、排水ホッパー、耐震用脚、他一式共	1φ200V 2.0W	1	調理室 (キッチン)	参考番:REW35C2BHSCM

注記) 電源容量・消費量等は参考値とする  
給湯器、配線、ボックス共本工事

樹仕様

種別	記号	樹寸法	樹寸法	備考
小口径インパート樹	S-1	150φ	密閉型 150φ	記号 ○
小口径インパート樹	S-2	200φ	密閉型 200φ	記号 ○
小口径雨水樹	R-1	150φ	密閉型 150φ	記号 ⊗
小口径雨水樹	R-2	200φ	密閉型 200φ	記号 ⊗
排水樹	RC			記号 ⊗ ⊞

記号 ・D→MHD蓋 ・A→MHA蓋 ・B→MHB蓋 ・格子→格子蓋 ・化粧→化粧蓋+MHB蓋  
・トラップ→トラップ樹 ・ドロップ→ドロップ樹 ・T→鋳鉄製蓋(T-8) ・表記なし→塩ビ製蓋(鎖付き)

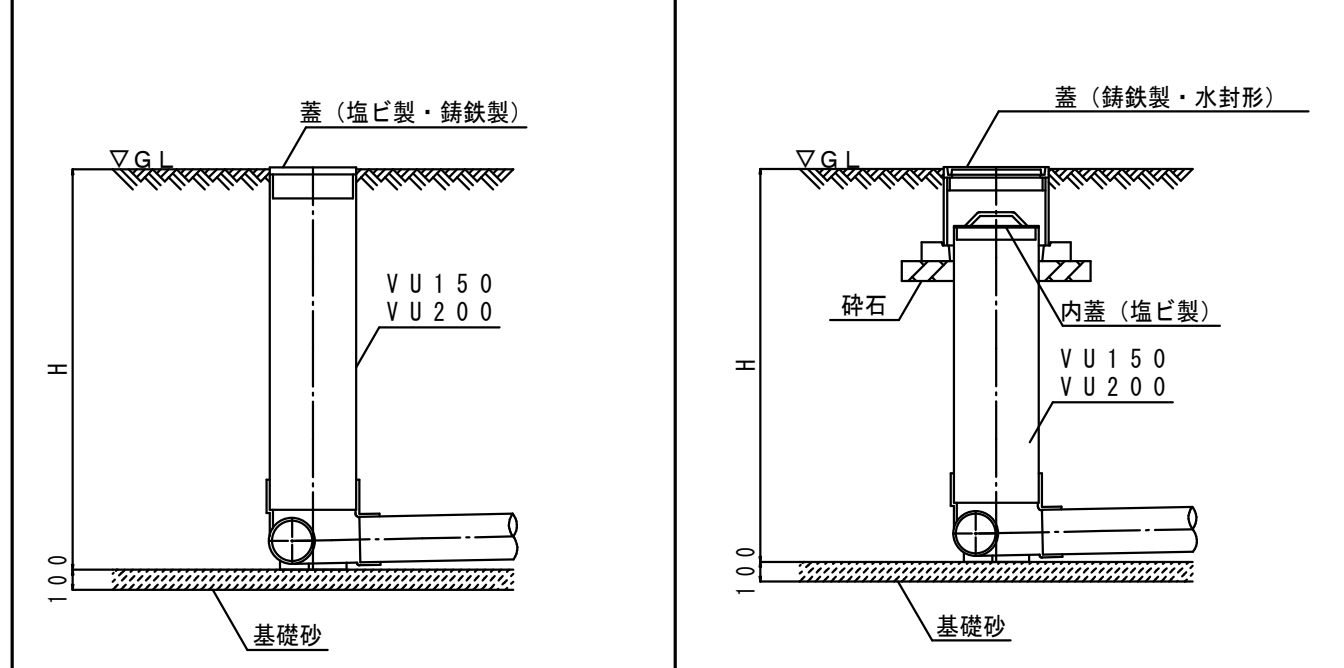
注記)  
図面上の勾配は参考として、管底、樹位置は詳細図作成の上、決定とする  
管底合わせが出来ない場合は掃除口を設ける  
図示無きも車両乗り入れ部は鋳鉄製蓋、T-8蓋とすること  
塩ビ製インパート樹と流入管底の口径は変芯ソケットを使用して調整する  
雨水の小口径塩ビ樹は、泥溜H=150以上とし、樹脂製バケットを含むものとする

衛生器具表

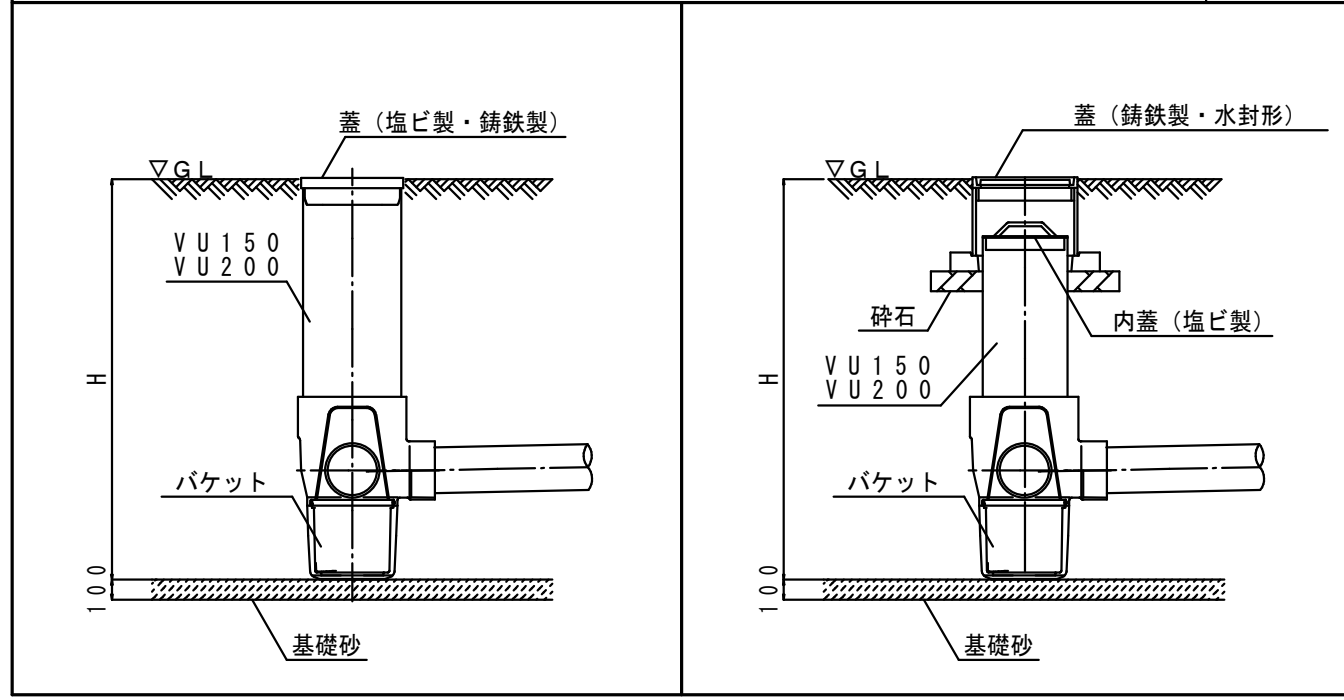
器具名称	参考品番	付属品 他一式共	調理室	外部	合計
外流し	550-G型	樹脂製スタンド		1	1
横水栓 + 水栓柱	T28AKUH13	キー式、水栓柱(樹脂製)共		1	1
(キッチン)	(建築工事)	(混合水栓、IHヒーター共)	(1)		(1)

注記) 器具個数は参考とし各図面確認の上とする。  
器具の色柄及び仕様は施主と再度打合せの上、決定する事。  
器具取付箇所は事前に打合せを行い建築工事にて必要な補強を行う事。

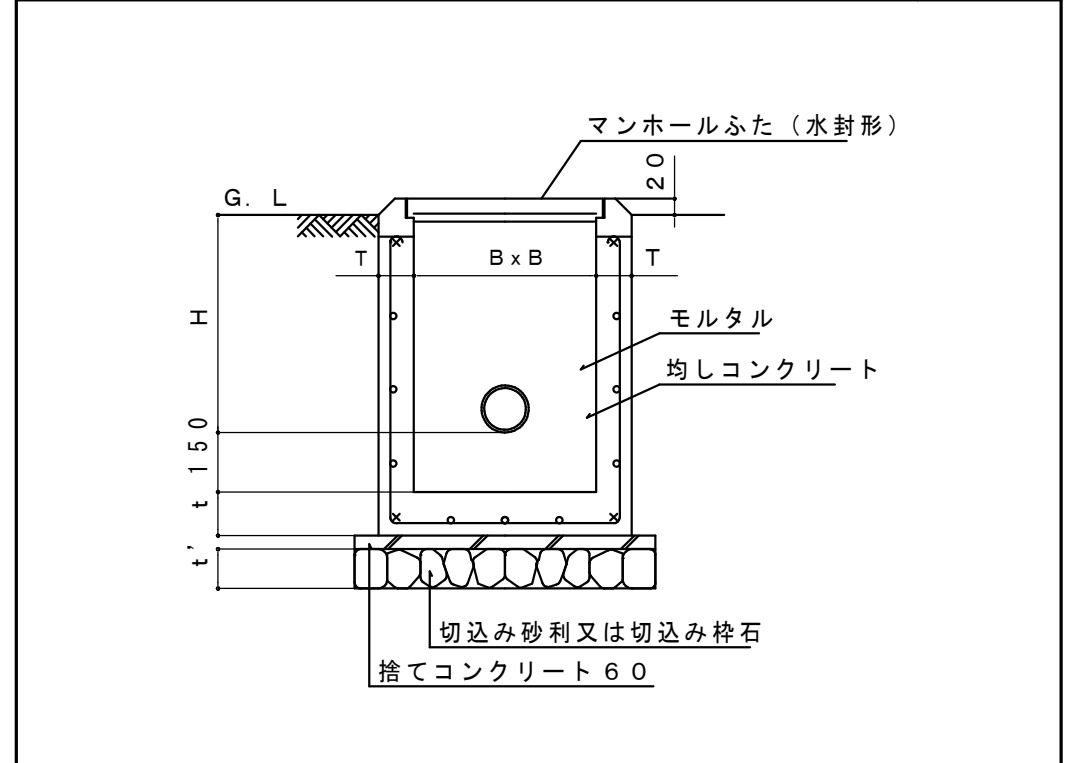
S-1~2 小口径汚水樹 単位:mm



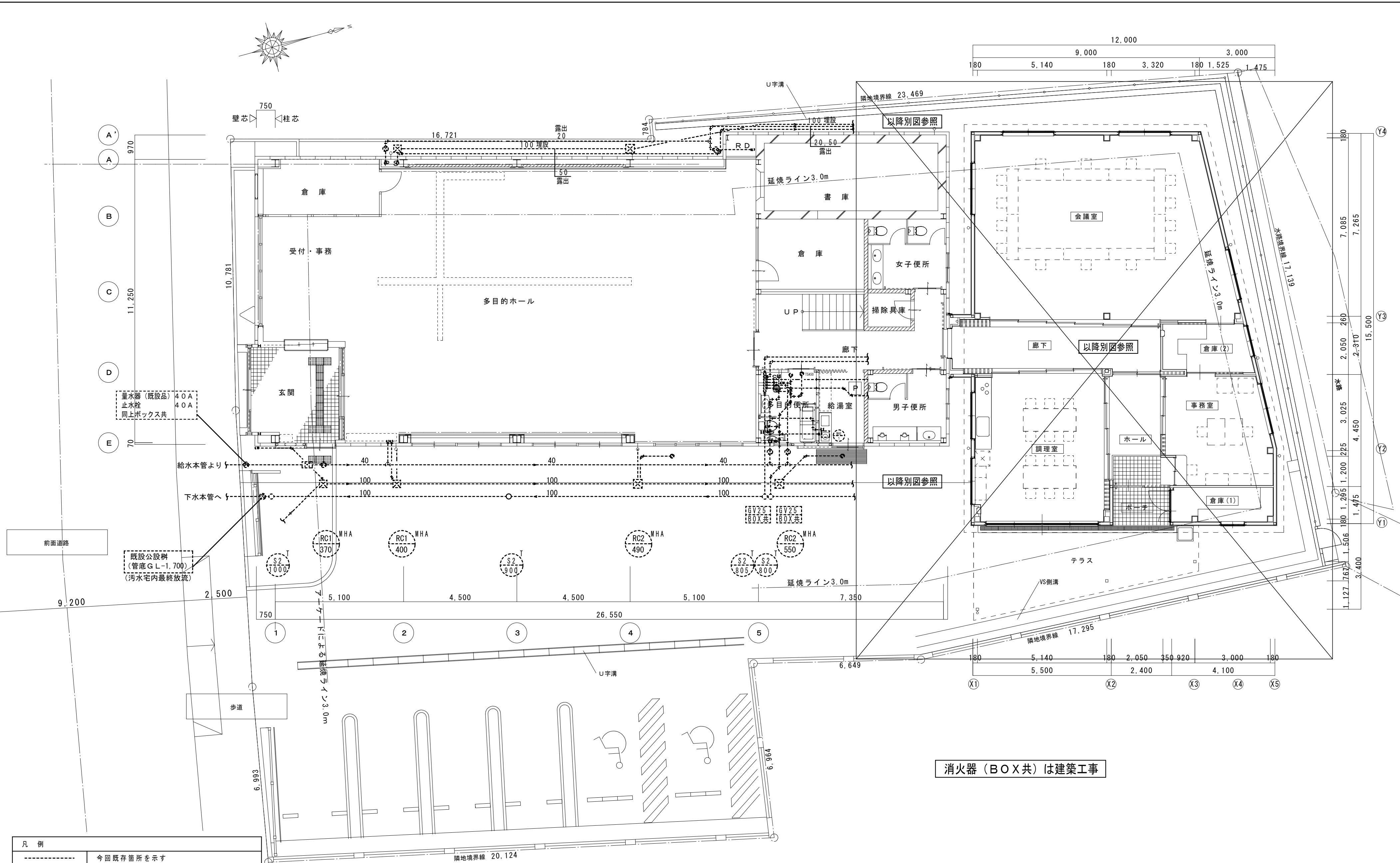
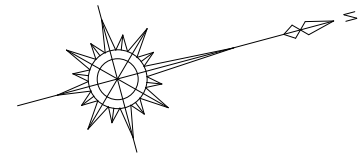
S-1~2 小口径雨水樹 単位:mm



RC-1~3 排水樹 単位:mm



記号	B	H	T	t	t'	ふた
RC-1	350x350	450以下	100	100	100	---
RC-2	450x450	460~600	100	120	100	---
RC-3	600x600	610~1,200	120	120	100	---



量水器 (既設品) 40A  
止水栓 40A  
同上ボックス共

既設公設樹  
(管底 G.L.-1.700)  
(汚水宅内最終放流)

消火器 (BOX共) は建築工事

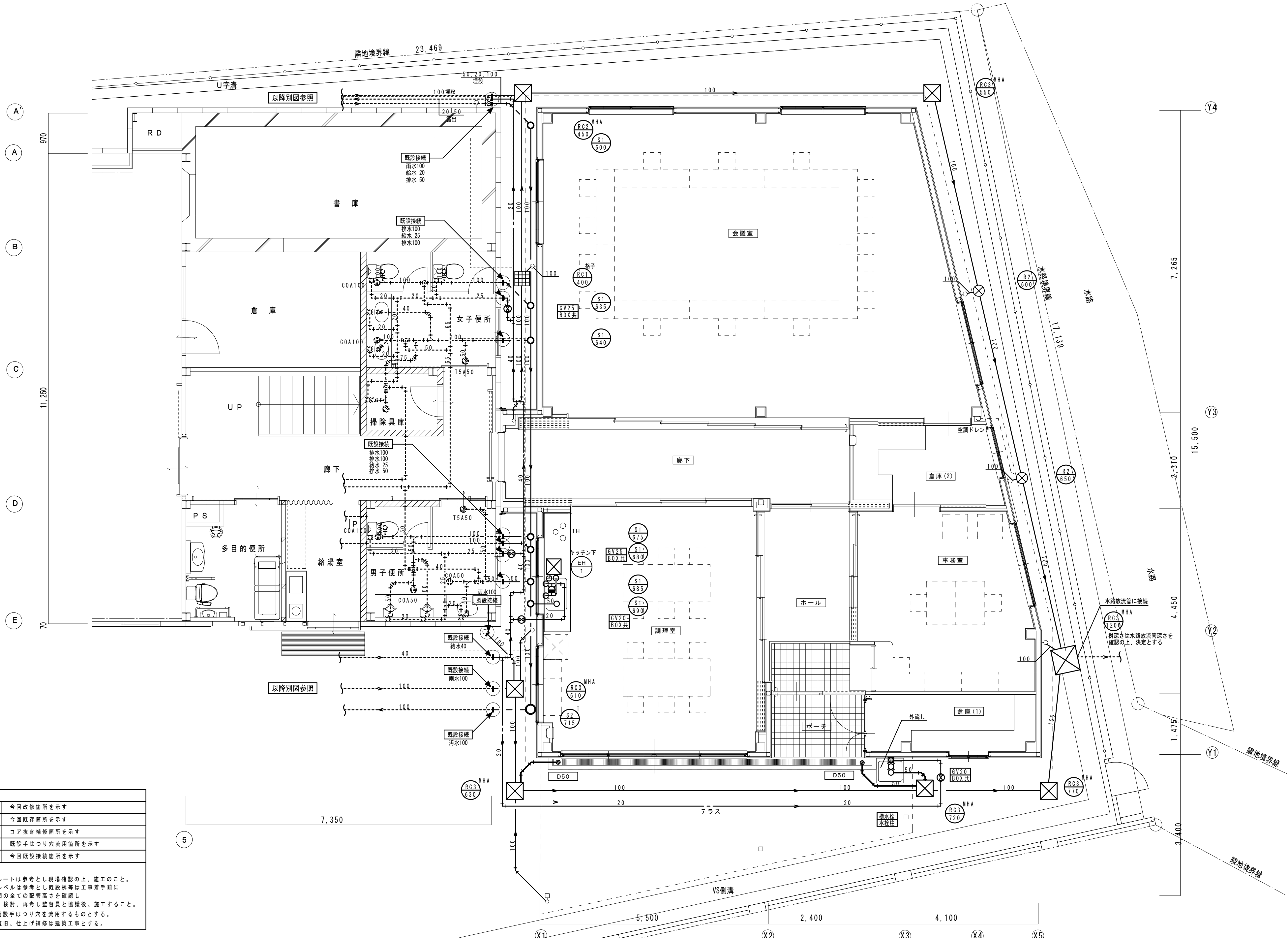
凡例

----- 今回既存箇所を示す

注記)

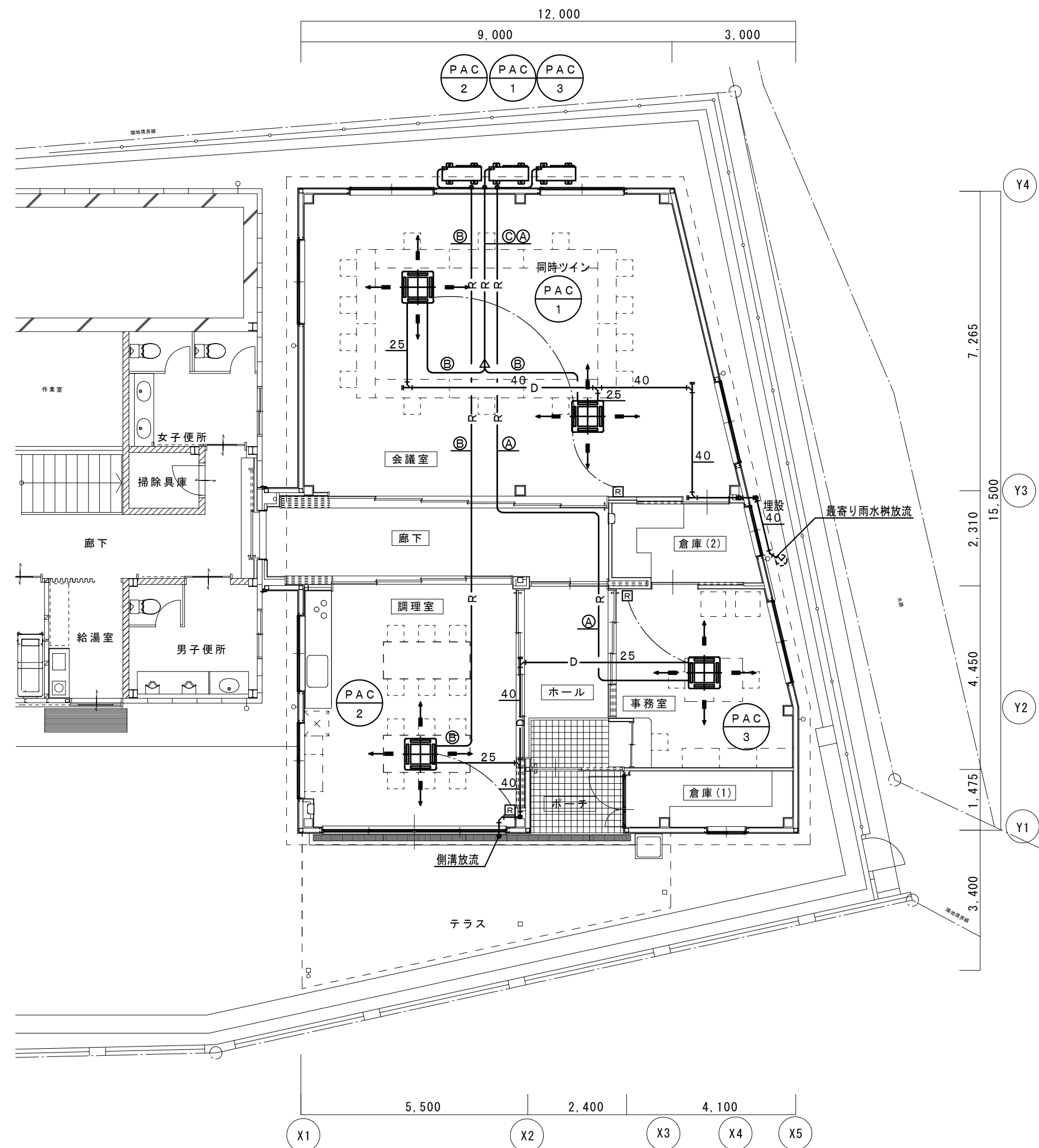
既設配管サイズ、ルートは参考とし現場確認の上、施工のこと。  
樹サイズ・規格・レベルは参考とし既設樹等は工事着手前に  
工事に該当する範囲の全ての配管高さを確認し  
詳細施工図を作成、検討、再考し監督員と協議後、施工すること。  
配管貫通口は極力既設手はつり穴を流用するものとする。  
舗装・土間はつり復旧、仕上げ補修は建築工事とする。





凡例	
	今回改修箇所を示す
	今回既存箇所を示す
	コア抜き補修箇所を示す
	既設手はつり穴流用箇所を示す
	今回既設接続箇所を示す

注記)  
 既設配管サイズ、ルートは参考とし現場確認の上、施工のこと。  
 例サイズ・規格・レベルは参考とし既設樹等は工事着手前に  
 工事に該当する範囲の全ての配管高さを確認し  
 詳細施工図を作成、検討、再考し監督員と協議後、施工すること。  
 配管貫通口は極力既設手はつり穴を流用するものとする。  
 舗装・土間はつり復旧、仕上げ補修は建築工事とする。



空調機器表

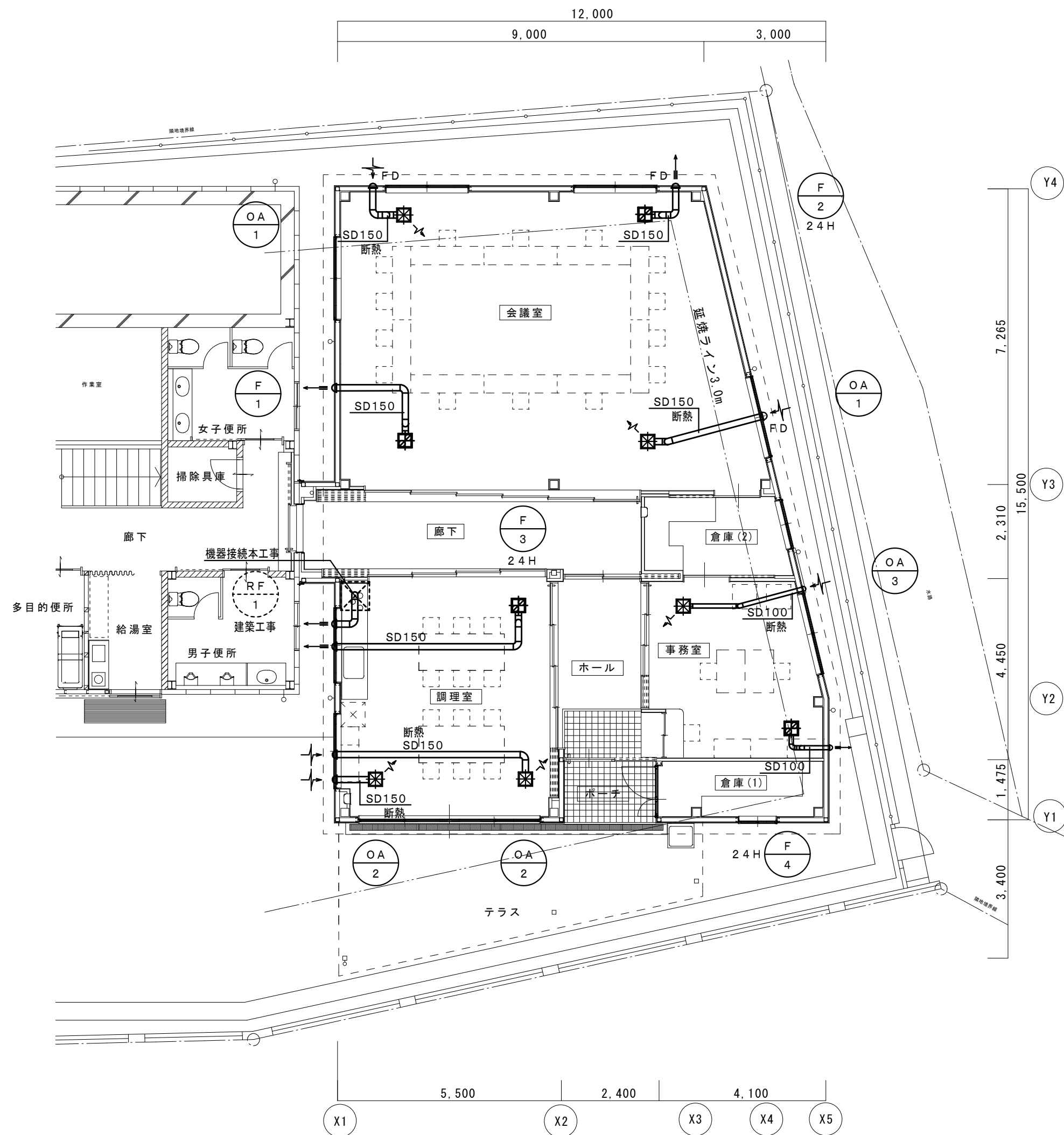
記号	機器名 (参考型番)	機器仕様	電気容量		台数	設置場所	配線	開閉器	備考
			電源	消費電力 (kW)					
PAC 1	空冷ヒートポンプ式 パッケージエアコン	形式 4方向天井カセット形 同時ツイン	3φ 200V	冷房 6.10	1	会議室	8.0	40A	
		冷房能力 20.0 (6.4~22.4) kW		暖房 5.68					
		暖房能力 22.4 (5.6~27.0) kW		低温 9.00					
	PLZX-ERMP224HE2	冷媒配管 内機 液管 9.52φ ガス管 25.4φ							
		外機 液管 9.52φ ガス管 25.4φ		圧縮機 4.6					
		附属品 化粧パネル、ワイヤードリモコン、 転倒防止支持金具、他標準付属品一式共		送風機(内) 0.12x2 送風機(外) 0.15x2					
	基礎 既成コンクリート基礎(防振ゴム敷)	APF 5.1							
PAC 2	空冷ヒートポンプ式 パッケージエアコン	形式 4方向天井カセット形	3φ 200V	冷房 2.37	1	調理室	5.5	30A	
		冷房能力 10.0 (4.0~11.2) kW		暖房 2.47					
		暖房能力 11.2 (4.4~14.0) kW		低温 5.18					
	PLZ-ERMP112EEZ	冷媒配管 内機 液管 9.52φ ガス管 15.88φ							
		外機 液管 9.52φ ガス管 15.88φ		圧縮機 2.10					
		附属品 化粧パネル、ワイヤードリモコン、 転倒防止支持金具、他標準付属品一式共		送風機(内) 0.12 送風機(外) 0.20					
	基礎 既成コンクリート基礎(防振ゴム敷)	APF 6.1							
PAC 3	空冷ヒートポンプ式 パッケージエアコン	形式 4方向天井カセット形	3φ 200V	冷房 1.26	1	事務室	3.5	30A	
		冷房能力 5.0 (1.8~5.6) kW		暖房 1.34					
		暖房能力 5.6 (1.4~7.3) kW		低温 2.40					
	PLZ-ERMP56HE2	冷媒配管 内機 液管 6.35φ ガス管 12.7φ							
		外機 液管 6.35φ ガス管 12.7φ		圧縮機 1.2					
		附属品 化粧パネル、ワイヤードリモコン、 転倒防止支持金具、他標準付属品一式共		送風機(内) 0.05 送風機(外) 0.04					
	基礎 既成コンクリート基礎(防振ゴム敷)	APF 6.4							

注記) \*1. 室外機-室内機間の2次側配線は冷媒管と抱き合わせの上本工事とする。  
 \*2. 電源容量値、配線、開閉器、備考数値は参考として納入メーカー仕様による。  
 \*3. 運転特性、能力はJIS条件による。  
 \*4. 室外機: 必要に応じて転倒防止支持金具取付のこと。  
 \*5. リモコンスイッチ用配線は、EM-CEE1.25<sup>□</sup>-2C。  
 \*6. 断熱材被覆銅管 原管はJIS H3300による。  
 保温厚はガス管20mm、液管10mm以上とする。  
 \*7. 高調波対策が必要な機器は高調波対策の事。

冷媒配管配線セットサイズ表 (参考)

記号	液	ガス	連絡配線
Ⓐ	6.4φ	12.7φ	EM-CEE2 <sup>□</sup> -4C
Ⓑ	9.5φ	15.9φ	EM-CEE2 <sup>□</sup> -4C
Ⓒ	9.5φ	25.4φ	EM-CEE2 <sup>□</sup> -4C

\*内外渡り配線は冷媒管抱き合わせ配線とする。  
 \*リモコン配線はEM-CEE1.25<sup>□</sup>-2C  
 壁立下りはPF16保護仕上げ  
 \*リモコン取付位置は参考として、意匠、電気設備と調整を取り監督員に承認を得た上の位置で決定とする



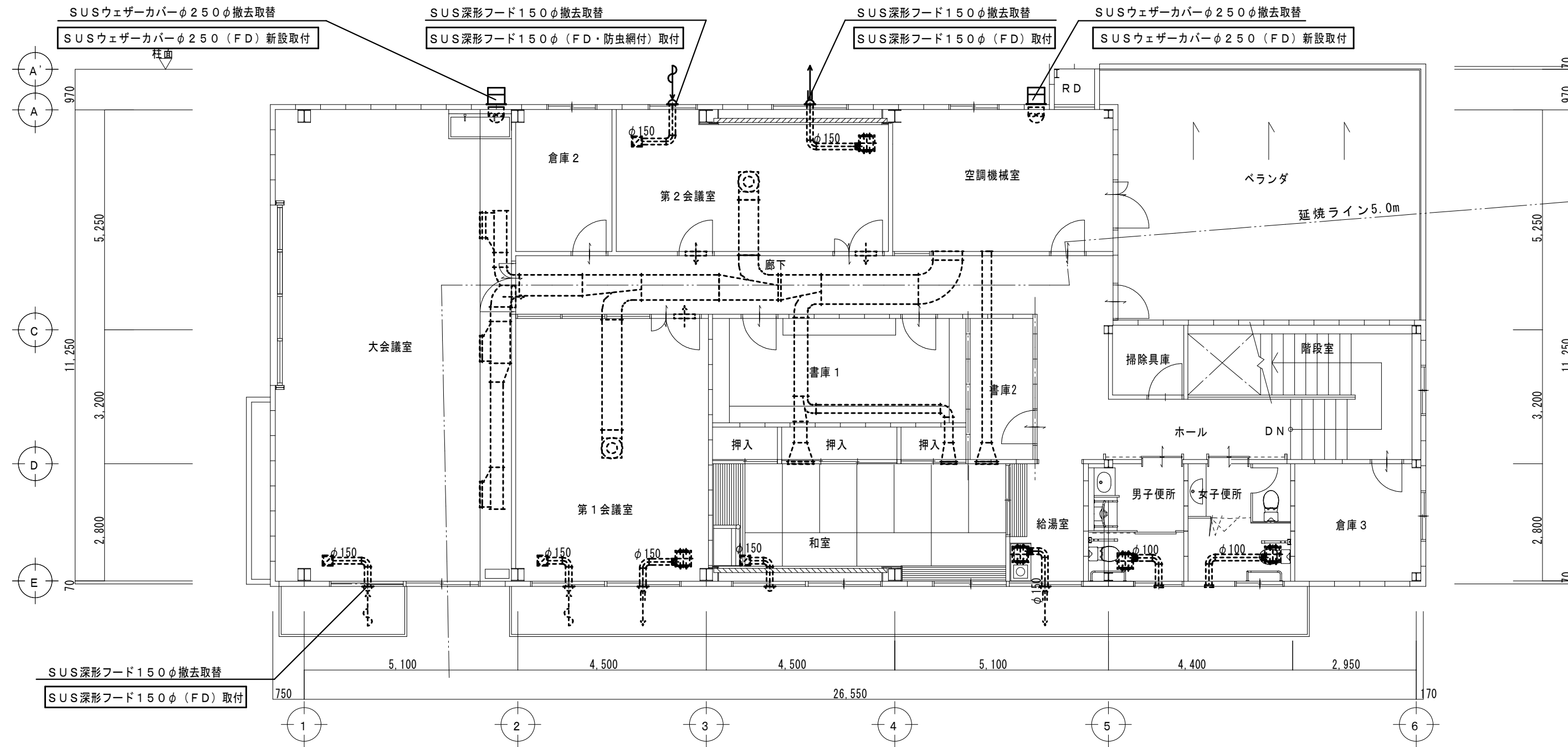
換気機器表 フードは指定色焼付塗装とし、現場指示

機器番号	機器名称 参考型番	形式・仕様		電気容量		台数	設置場所・備考
				電源 (V)	電動機 (W)		
F 1	天井換気扇	形式	低騒音インテリア格子形 150φ	1φ-100	46.0	1	会議室
	VD-20ZX13-C	風量	320 m <sup>3</sup> /h 60 Pa				
		付属品	SUS深形フード、他一式共				
F 2	天井換気扇	形式	低騒音インテリア格子形 150φ	1φ-100	46.0	1	会議室
	VD-20ZX13-C	風量	320 m <sup>3</sup> /h 60 Pa				
		付属品	SUS深形フード(FD)、他一式共				
F 3	天井換気扇	形式	低騒音インテリア格子形 150φ	1φ-100	62.0	1	調理室
	VD-20ZXP13-C	風量	380 m <sup>3</sup> /h 90 Pa				
		付属品	SUS深形フード、他一式共				
F 4	天井換気扇	形式	低騒音インテリア格子形 100φ	1φ-100	14.0	1	事務室
	VD-15ZX13-C	風量	130 m <sup>3</sup> /h 25 Pa				
		付属品	SUS深形フード、他一式共				
RF 1 建築工事	(レンジフード)	形式	150φ	1φ-100		1	調理室キッチン
	(建築工事)	風量	m <sup>3</sup> /h Pa				
		付属品	SUS深形フード150φ(本工事)				
OA 1	給気グリル	形式	天井付(フィルター付) 風量調整機構付 150φ	--	--	2	会議室x2
	P-18GLF5	付属品	SUS深形フード(FD・防虫網)、フィルター、他一式共				
OA 2	給気グリル	形式	天井付(フィルター付) 風量調整機構付 150φ	--	--	2	調理室x2
	P-18GLF5	付属品	SUS深形フード(防虫網)、フィルター、他一式共				
OA 3	給気グリル	形式	天井付(フィルター付) 風量調整機構付 100φ	--	--	1	事務室
	P-13GLF5	付属品	SUS深形フード(防虫網)、フィルター、他一式共				

注記  
 フードは指定色焼付塗装とし、現場指示とする  
 図示24Hと表記は24時間換気とし、換気扇スイッチに24時間換気を明示とする。  
 図示FDと記載はFD設置とする。  
 ※排気ファンの電動機出力は、JIS C 9603に指定された消費電力による。

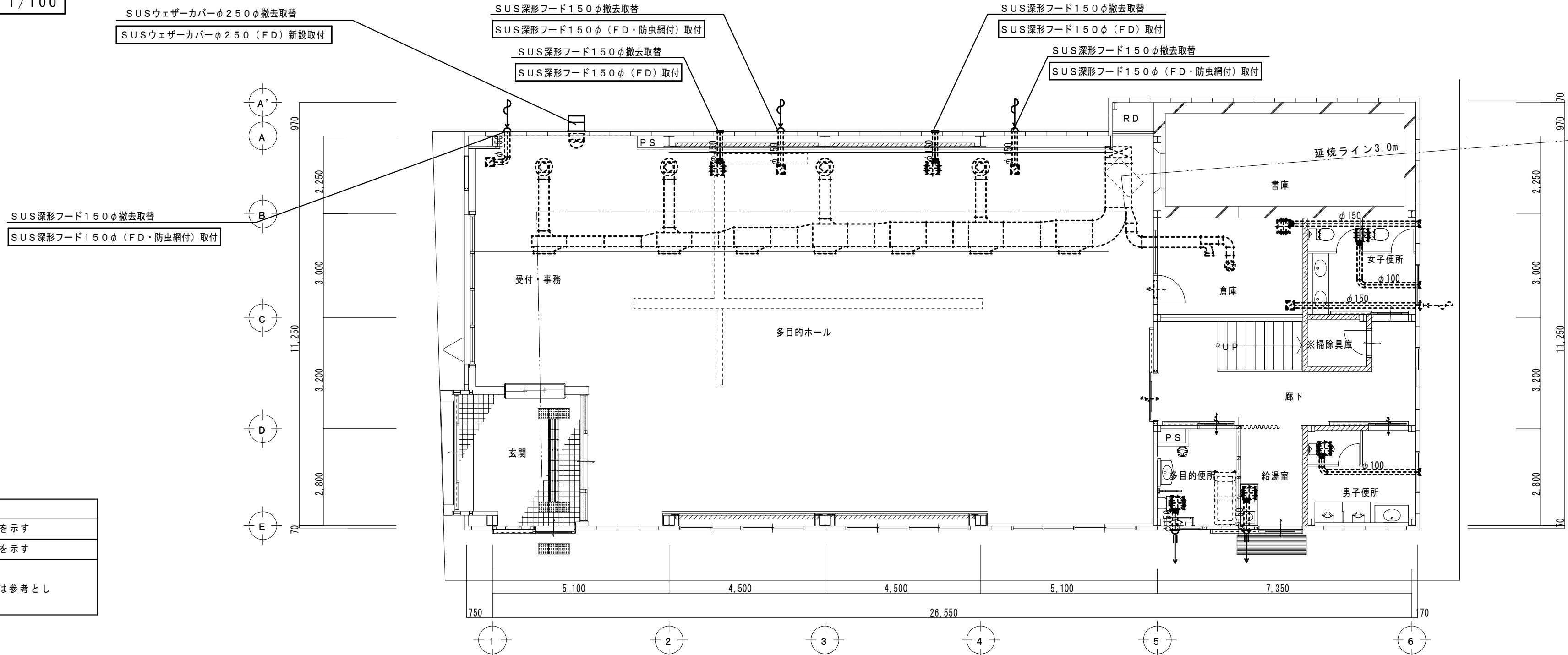
延焼のおそれのある外壁面等に設ける防火覆いの取扱いについて  
 換気ダクトの開口面積100cm<sup>2</sup>以内の風道の措置については  
 H12告示1369号を適用  
 換気ダクトの開口面積100cm<sup>2</sup>を超える風道については  
 FD設置

2階平面図 1/100



凡例	
——	今回改修箇所を示す
----	今回既存箇所を示す
注記) 既設機器配置、ダクトサイズ、経路は参考とし 現場確認の上、施工のこと。	

1階平面図 1/100

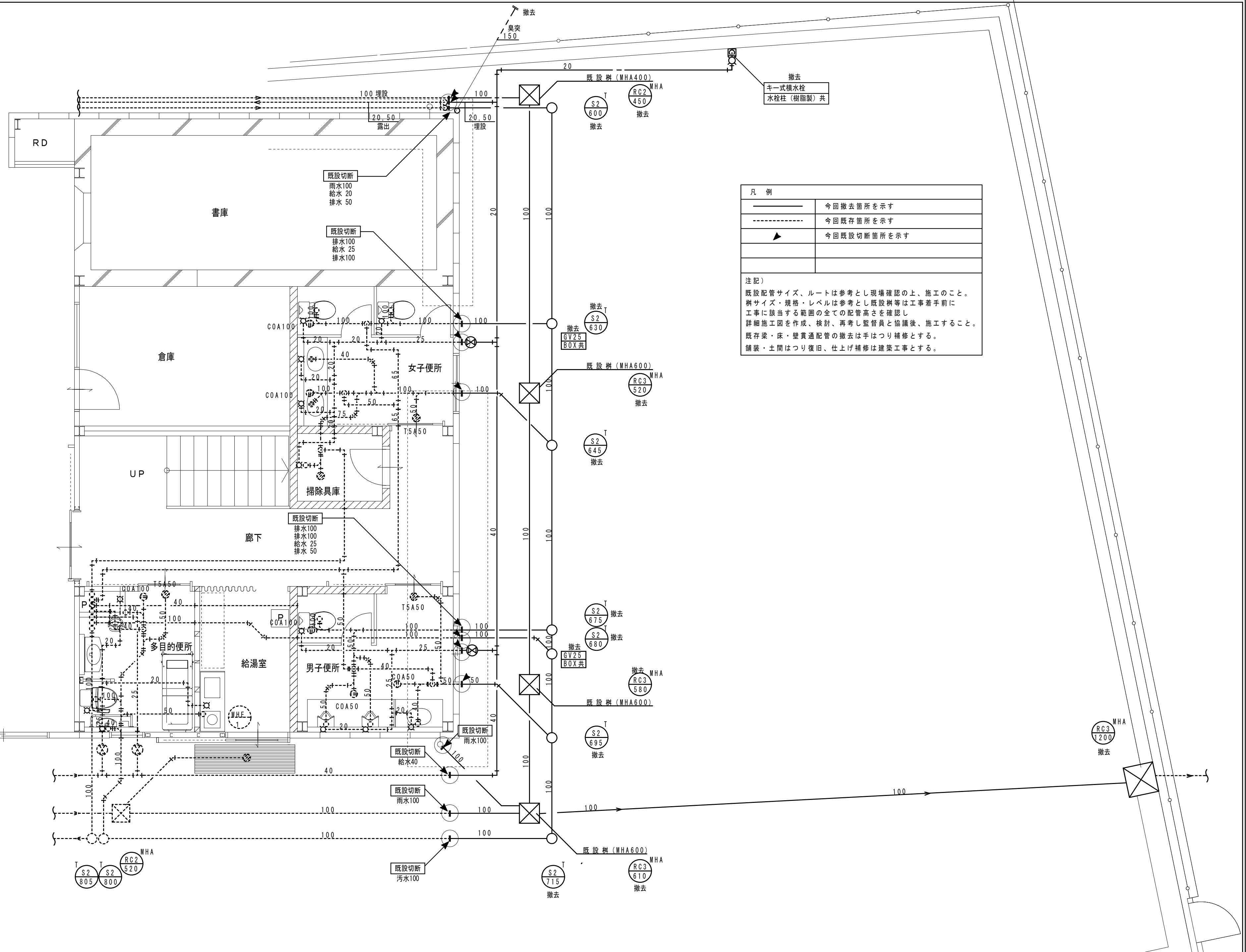


凡例	
——	今回改修箇所を示す
----	今回既存箇所を示す
注記) 既設機器配置、ダクトサイズ、経路は参考とし 現場確認の上、施工のこと。	



A  
A  
B  
C  
D  
E

970  
11,250  
70



注記)  
 既設配管サイズ、ルートは参考とし現場確認の上、施工のこと。  
 樹サイズ・規格・レベルは参考とし既設樹等は工事着手前に  
 工事に該当する範囲の全ての配管高さを確認し  
 詳細施工図を作成、検討、再考し監督員と協議後、施工すること。  
 既存梁・床・壁貫通配管の撤去は手はつり補修とする。  
 舗装・土間はつり復旧、仕上げ補修は建築工事とする。

換気計算書

居室毎の機械換気設備							居室換気		機械換気 (対象室のみ)				シックハウス対策											
居室	換気種別	階	部屋名	面積 (m <sup>2</sup> )	平均天井高 (h) m	気積 (m <sup>3</sup> )	気積 (m <sup>3</sup> ) 小計	占有面積 N (<10) (m <sup>2</sup> /人)	必要換気量 V = 20Af/N (m <sup>3</sup> /h)	選定機器記号	選定台数	選定機器風量 (m <sup>3</sup> /h)	判定	C2 (回/h)		V = v c 2	選定機器記号	選定風量 (m <sup>3</sup> /h)	換気回数		判定	備考 (給気源)		
														0.3	(一室) 0.3				61	(一室) 110			F-4	130
●	3	1	事務室	19.2	2.7	51.84	(一室利用時) 365.23		建築法チェックによりOK	—	—	—	OK	0.3		16	F-4	130	2.50		よってOK	0A-3		
●	3	1	会議室	74.4	2.7	200.88			建築法チェックによりOK	—	—	—	OK	0.3	0.3	61	(一室) 110	F-2	320	1.59	(一室) 1.91	よってOK	0A-1	
●	3	1	調理室	33.0	2.7	89.10			建築法チェックによりOK	—	—	—	OK	0.3	0.3	27		F-3	380	4.26		よってOK	0A-2	
	3	1	廊下	17.53	2.7	47.33			建築法チェックによりOK	—	—	—	OK	0.3	0.3	---		---	---					
	3	1	ホール	10.34	2.7	27.92			建築法チェックによりOK	—	—	—	OK	0.3	0.3	---		---	---					

丸ダクトの直管相当長さ

曲がり部 (R/D = 1.0)	100φ	150φ	200φ
	1.5m	2.3m	3.0m

ダクト部材の相当長さ

名称	口径	参考型番 (三菱電機)	(相当長)
フード	100φ	P-13VS4	5.0m
	150φ	P-18VS4	10.0m
	150φ (FD)	P-18VSD4	12.5m

換気計算書

圧力損失計算書 『直管相当長』による方法 (簡略法)

換気種別	階	部屋名	機器記号	機器名称	(口径φ)	直管 (m)	曲がり部			部材の相当長 (m)		相当長計 (m)	換算圧力損失 (Pa)	設計圧力 ≤ (Pa)	有効換気量 設計換気量 (m <sup>3</sup> /h)	判定	選定型番 (三菱電機)
							(R/D = 1.0)	個数	計	フード							
3	1	会議室	F-2	天井換気扇	150φ	1.2	2.3	1	2.3		12.5	16.0	45	60	320	OK	VD-20ZX13-C
3	1	調理室	F-3	天井換気扇	150φ	5.3	2.3	1	2.3		11.0	18.6	78	90	380	OK	VD-20ZXP13-C
3	1	事務室	F-4	天井換気扇	100φ	1.3	1.5	1	1.5		5.0	7.8	25	25	130	OK	VD-15ZX12-C